

1 学期終業式 校長講話（7月20日）

部活動の大会の表彰・紹介から30分ほどがたち、今、給水の時間をとりました。これから終業式のお話をしますが、もし途中で体調が悪くなったら我慢せず、近くにいる先生に声をかけてください。できるだけ短くお話をしたいと思います。

この後、生徒指導の先生から具体的な話をさせていただくと思いますし、昨日の学年集会や学活で担任の先生からも話を聞いていると思いますので、先生からは一つだけ話をします。

4月、こんなに大きな不安を抱えてスタートした1学期と思います。それが毎日の学校生活の中で、友だちとおしゃべりをしたり、先生と話したり、部活動で一緒に汗を流したりする中で、少しずつ小さくなっていったのではないのでしょうか。そして、そんな毎日の積み重ねと同時に、1学期にあったそれぞれの学年の大きな行事、1年生はオリエンテーション合宿、2年生は職場体験学習、3年生は修学旅行で、ひと回り大きく成長したもののこの1学期でした。もちろん、小さくなった不安もまたしばらくすると大きくなることもあったことでしょう。中学生のこの時期は、心がとても敏感な時期です。ちょっとしたことで、落ち込んだり、腹が立ったりします。でも、それは自分だけではなく、周りの誰もが同じ気持ちをもっています。みんなのお父さんやお母さんも中学生の頃は、きっと同じように悩み、不安だったと思います。決して自分だけではなく、ごく普通のことだと思います。しかし、そうやって悲しいことがあったり、「こんちくしょう」と怒ったりすることと、「死」とはまったく別のものだという事を知ってほしいのです。

先日、西日本を襲った豪雨により、200人を超える方の命が失われました。日本を襲った自然災害で一番多くの方が亡くなったのが東日本大震災で、その次が阪神淡路大震災です。そして3番目に多かったのが伊勢湾台風なんです。今回の西日本豪雨はそれに告ぐ被害でした。これについては生徒会がいち早く動いてくれ、5万円を超える募金、義援金が集まり被災した地域に送ってくれました。また、ちょうどその頃、学校では、交通事故でお子さんをなくされた佐藤さんのお話をうかがいました。教室でも「命」について考えました。その時、佐藤さんは言われました。「死んでしまったら、そこですべてが終わってしまふ。死からは何も生まれぬ。でも生きていれば、命はつながる」と。

2年生の子が職場体験学習で、「保育園の子ってかわいいなあ」と思ったり、飲食店へ行った子が「『ごちそうさま』って言われるとうれしいな」と感じたりして、将来の夢が少し具体的になっても、死んでしまったらその夢も叶いませ

ん。3年生の廊下へ行くと「修学旅行の思い出ベスト3」というものが貼ってあります。ディズニーランドや江戸職人体験などもある中で、ほとんど子が書いていたのが、「ホテルの中での友だちとのおしゃべり」でした。1年生の子も、大部屋で先生の足音を気にしながらおしゃべりしたことは楽しい思い出の一つだったことでしょう。死んでしまったら、その時、隣にいて楽しくおしゃべりした子がいなくなってしまうんです。もうその時間は戻ってこないのです。

昨日、教室でこのようなチラシを配ってもらったと思います。おうちの人用のものあり、手渡してくれたと思います。なぜ今、これを配り、こういう話をするかというと、9月1日が一年365日の中で一番自殺する人の数が多いからです。8月31日。もう夏休みも今日で終わり。明日から2学期という時に、まだ宿題が終わっていない、どうしよう、行きたくないなあ、死んじゃいたい、という考えが頭をよぎるかもしれません。だめです！絶対に死んではいけません！皆さんの命はかけがえのないものです。豊田市の小学生が熱中症でなくなったことを受けて、担任の先生たちは授業中も水筒を足元に置いて飲んでもいいよと言ってくれました。体操服で授業を受けることも認めてくれました。皆さんの周りにはいる誰もが、皆さんの命を大切にしています。

2学期の始業式。またここで、「おはよ〜う！」「ひさしぶり！」とみんなが元気に顔を合わせられることを願っています。